

海上技術安全研究所100周年記念事業
パネルディスカッション

日本財団における取組について
—海への好奇心を持ち、行動を起こすムーブメント—

2016年12月2日
常務理事（海洋担当）
海野光行

「海」との出会い

—海上技術安全研究所の取り組みを考えるにあたって—

年間の海水浴客数

3,790万人 (1985年)

⇒ 990万人 (2012年)

全国の小中学校における海洋体験教育の実施率

17% (2014年)



2016年度 プロジェクトの内容と成果

背景と課題

- ・ 世界：海洋問題の深刻化（気候変動や自然災害、海の酸性化、海洋生物資源の乱獲等）
- ・ 国内：海離れの加速化（海洋体験の減少、海に関する教育の不足、海に携わる人材の枯渇）

目的

セクターを超えた「オール・ジャパン」で連携し、次世代を担う子供たちや若者を中心に多くの方々が海への好奇心を持ち、行動を起こす**ムーブメント**を作り出す。

2016年度の実施体制

主催：日本財団、国土交通省、総合海洋政策本部

① 総合開会式

実施：総合海洋政策本部

② 国際シンポジウム

実施協力：
The Nature
Conservancy

① 東京湾に おけるイベント

実施：国土交通省

③ サポートプログラム 43都道府県125事業 (1,520イベント)

実施：日本財団

③ 推進パートナー によるイベント等 の実施

③ 海事団体による イベントの実施



海と日本プロジェクト総合開会式

7月18日（月・祝）

東京湾 晴海客船ターミナルビル4階

- ・小学生、中学生、高校生および海事関係者合計310名が出席
- ・笹川会長、石井国土交通大臣、松本内閣府副大臣が挨拶
- ・安倍総理の海の日メッセージが読み上げられ、2025年までに全ての市町村で海洋教育が実践されることを目指すこと、それに伴い「ニッポン学びの海プラットフォーム」が設立されることが表明された。

晴海港における船の一般開放

7月18日（月・祝）

東京湾晴海埠頭 客船ターミナル

・練習帆船「日本丸」、漁業調査船「開洋丸」、自動車運搬船「AQUAMARINE ACE」、海上保安庁巡視船「いず」など9隻の船を一般開放。

・親子連れを中心にのべ11,000人が来場。



海の人材育成に関する国際シンポジウム

7月19日（火）～20日（水）
ザ・キャピトルホテル東急

- ・コミュニティによる海の人材育成の実例に焦点を当てた初の国際会議。2日間でのべ500名が参加。
- ・パラオ共和国大統領をはじめとする各国のリーダー、国連食糧農業機関水産資源部長、国連海事海洋法課長等の国際機関、実践者や教育者等が30カ国から40名以上集う。
- ・海の人材育成に関する実践を紹介するとともに、今後の課題やニーズ等について多角的な議論と発信を行った。



海と日本プロジェクト2016サポートプログラム 事業マップ (43都道府県125事業 1,520イベント)



全国

- | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |

長崎

- | | |
|-----|-----|
| 112 | 113 |
| 114 | 115 |

広島

- | | | |
|----|----|----|
| 91 | 92 | 93 |
| 94 | 95 | 96 |

大阪

- | | | |
|----|----|----|
| 75 | 76 | 77 |
|----|----|----|

佐賀

- | | |
|-----|-----|
| 110 | 111 |
|-----|-----|

東京

- | | | | |
|----|----|----|----|
| 45 | 46 | 47 | 48 |
|----|----|----|----|

神奈川

- | | | | | |
|----|----|----|----|----|
| 49 | 50 | 51 | 52 | 53 |
| 54 | 55 | 56 | 57 | 58 |

125

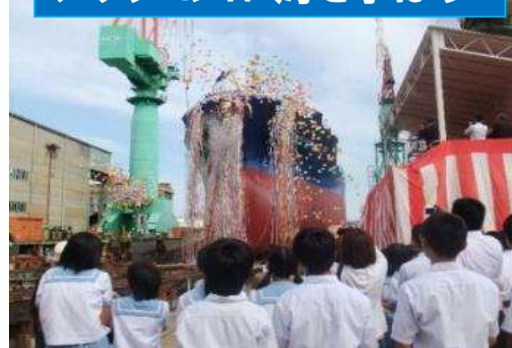
③各地で一般に拡げる取り組み（サポートプログラム）

本プロジェクトにおいて一人ひとりに参加を期待するアクションを5つ設定し、海との接点をつくるきっかけを具体的に提供。アクションに沿った事業を全国規模で展開することで、ムーブメントとしての高まりを創出する。

アクションB：海をキレイにしよう



アクションA：海を学ぼう



アクションC：海を味わおう



アクションD：海を体験しよう



海と日本
PROJECT

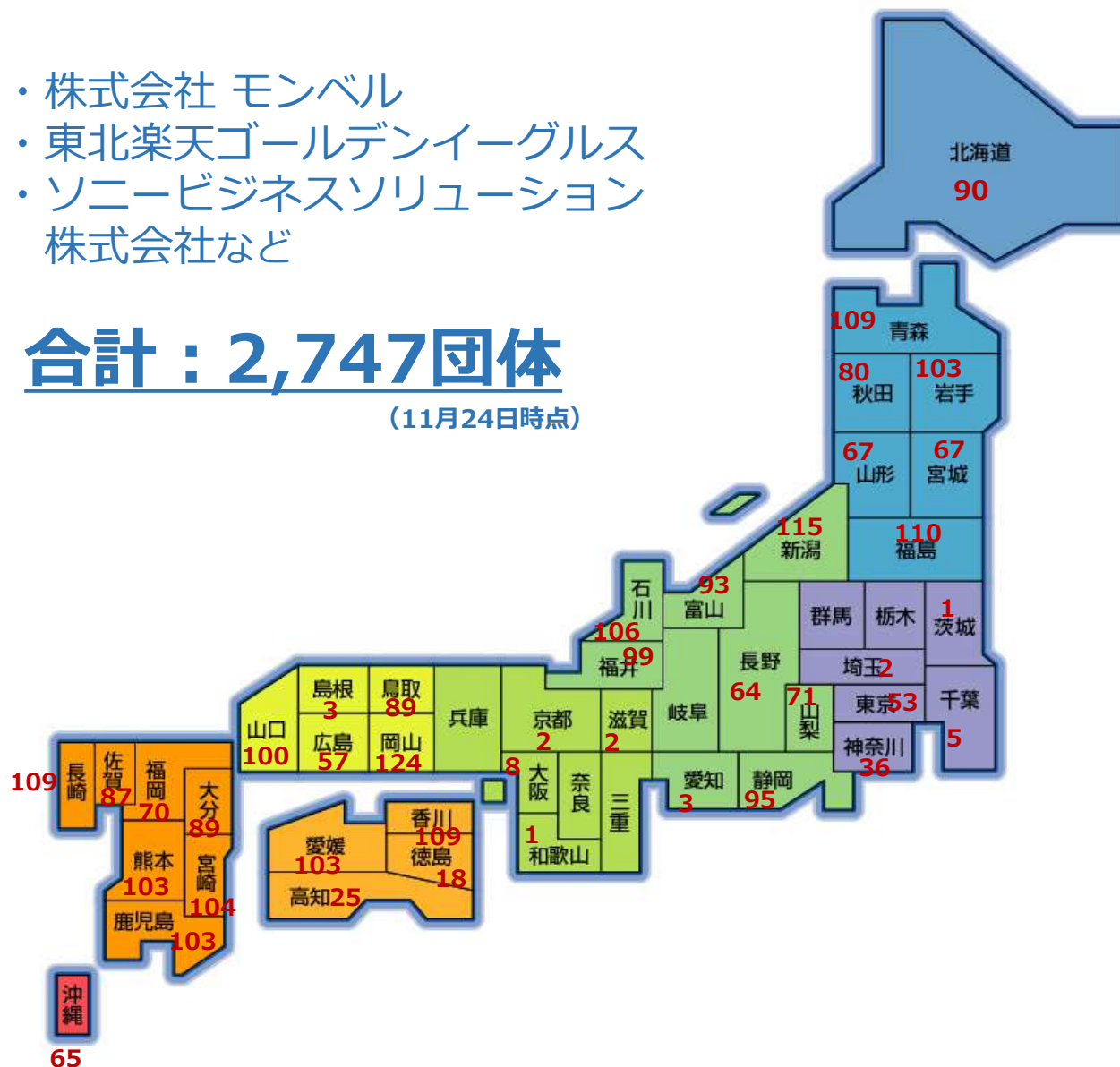
アクションE：海を表現しよう



- ・株式会社 モンベル
- ・東北楽天ゴールデンイーグルス
- ・ソニービジネスソリューション株式会社など

合計：2,747団体

(11月24日時点)



プランタン銀座

「海と日本プロジェクト」
期間限定ショップ



大阪 Y M C A

子供たちへの海洋体験活
動の提供

全国での展開

43都道府県で実施

マスの動員

のべ参加者数 1,503,839人

広報の重視

広告換算価値 2,005,150,698円
(メディア掲載 2,145件
延べ報道時間55時間49分55秒)

熱源の形成

推進パートナー 2,747団体

その他 参考数値

- ・プロジェクト公式サイト PV数 : 280,634
- ・公式FBページ いいね数 : 1,462 (投稿閲覧数 628,354)
- ・公式Youtubeチャンネル 動画再生回数 : 149,727

海上技術安全研究所への期待

- ・ 海洋立国日本を支える基盤づくり

未来を拓いていく小・中学生に対し、
海に対する興味をもつきっかけ作りを

- ・ 研究所のプレゼンス向上

「知られていない」は「存在しない」と同義